

## 講 義 等 の 内 容 ( 博 士 後 期 課 程 )

授 業 科 目 名	講 義 等 の 内 容
経営学特別研究 (丑山優)	現代経営学における主要な概念についてのコンセプトと問題点を解明する。
日本経営史特別研究 (加来祥男)	第2次世界大戦後の日本企業の発展とその仕組みにみられる特徴を、生産システム、雇用システム、株式会社制度を中心に、国際比較を念頭におきながら考察する。
企業経済分析特別研究 (丑山優)	企業経営・企業経済分析・経営財務分野における、新たな展開について、その制度的および法的変遷・理論的分析を綿密に整理しながら、各自の研究課題を見いだすべく指導を行う。その際常に現実の企業経営が、どのように社会変化と関わり合いながら、どのような方向性を辿りつつあるかを見つけて出す訓練を行う。
国際経営特別研究 (小川雄平)	未定
会計情報学特別研究 (春日克則)	未定
会計監査論特別研究 (坂根純輝)	財務会計論及び監査論の先行研究を整理しながら、会計監査制度を考察する。
情報科学特別研究 (車柄玘)	大量の情報がネットワーク上に存在し、今後も爆発的に増大する。広大な情報の海から、求める情報を捜し出すために、膨大な情報を収集・分析し、再構築する必要がある。ネットワークの広域性、データの多様性・分散性・不均一性を考慮した広域情報検索システムについて研究する。また、ネットワーク接続された計算資源を用いて大規模分散計算を行う Grid コンピューティングの研究も行う。国内外の研究組織とも協力しつつ、計算問題分割、計算資源の分散管理、自動スケジューリング等を研究する。
情報メディア 特別研究 (麻生隆史)	未定
情報セキュリティ 特別研究 (車柄玘)	未定

授業科目名	講義等の内容
数値解析特別研究 (大浦洋子)	<p>自然科学系では偏微分方程式等で記述された数理モデルが多く存在し、その数値解析手法もかなり確立されている。近年では、社会科学系についても同様なモデル化が盛んに行われている。数値解析特別研究では、このような数理モデルについて色々な基準による分類を試み、それらの特徴や一般的な解法、解析条件などについて調査研究する。また、楕円型 Laplace 方程式について、数値解析手法の1つである有限要素法の代表的な離散化手法を修得し、具体的な境界値問題について解析システムを利用したシミュレーションを試みる。</p>
応用数値解析特別研究 (橋爪善光)	<p>数値解析特別研究を踏まえて、自然科学系では数多く利用されている微分方程式の解の振る舞いの求め方について調査研究する。解の周期性や安定性、カオスなどについて検討し、それぞれ実世界でどういう事例の数理モデルとなるかなどについても深く考察する。</p>
人工知能特別研究 (岸川洋)	<p>現在は、インターネットが生活の一部となり、又、身の回りのあらゆるものにコンピュータ機能が組み込まれ、それらがネットワークで連携する時代となっている。1950年代頃から本格的に発展してきた人工機能技術は、これらの中に融合し、インテリジェンス機器として我々の生活を豊かにしている。本研究は、このようなインテリジェンス機器を実現するためにどのような人工知能技術が必要であるかという観点から議論し、考察をすすめる。</p>
演習 I (麻生隆史)	<p>情報科学の分野でも近年特に注目を浴びている、デジタル画像処理技術を詳細に解説する。特にフィルタリング処理や領域分割等を学び、それをデジタル画像処理へ応用しシミュレーションする。その際必要である様々なプログラミング技術 (MATLAB 等を含む) もあわせて学ぶ。さらに論文作成に必要な様々なアイデアを討論し、研究の進め方を指導する。</p>
演習 I (丑山優)	<p>特別研究において指導した内容から、各自のテーマを具体的に設定し、そのための文献指導、文献整理、資料分析方法の訓練を行う。</p>
演習 I (小川雄平)	<p>未定</p>
演習 I (大浦洋子)	<p>社会・自然現象に関する理論的なモデル化、解析、予測、制御、可視化などの理論および具体的な問題解決の手法を研究することを目的とする。まず、自然科学分野で確立されている偏微分方程式をはじめとする数理モデルの把握と様々なアプローチを踏まえた有限要素法や境界要素法などに代表される解析手法を学ぶと共に、解析手法の安定性や解の精度についても学ぶ。さらに、経営情報学分野におけるシミュレーション手法援用の可能性について検討を行う。</p>

授業科目名	講義等の内容
演習Ⅰ (車炳圀)	インターネット技術や計算能力の進化に伴い、高機能、高性能の知的情報処理に関する研究にますます関心が高まっている。演習Ⅰでは、人間の視聴覚情報処理に関する最新の研究動向について視野を広げるために、画像、映像、音声などを中心とするメディア情報の知的処理に関する基礎理論や先端技術等について知識を広め、研究に必要な基礎知識を習得する。
演習Ⅰ (津守常弘)	演習Ⅰは、博士論文作成に必要な会計理論に関する体系的知見の整理と深化を目的とする。そのため、「古典的アプローチ」と対比しながら、「意思決定・有用性アプローチ」の特徴を整理し、「財務会計概念フレームワーク」の主要な論点、とりわけ「公正価値会計情報」に関する理論的研究を深める。演習は、予め指定した英文テキスト・その都度配布する英文テキストの購読および問題点についてのディスカッションを中心に系統的に進める。
演習Ⅰ (橋爪善光)	ヒトは無意識のうちに様々な運動学習を行っており、その内容を意識したり言語化したりすることは難しい。様々な運動に熟練したヒトの運動のばらつきの様子を観察することで、これまで気づけなかった、脳が身体制御において重視している運動のコツを探り出せる可能性がある。演習Ⅰでは論文作成に必要なアイデアを討論し、研究の進め方を指導する。
演習Ⅱ (麻生隆史)	高度なデジタル画像処理技術を詳細に解説する。特にニューラルネットワーク、ファジィ理論、カオス理論等のソフトコンピューティング技術を学び、それをデジタル画像処理へ応用しシミュレーションする。FPGA等を用いたハードウェア技術もあわせて学ぶ。さらに論文作成に必要な様々なアイデアをさらに討論し、高度な研究の進め方を指導する。
演習Ⅱ (丑山優)	前半を、演習Ⅰで行ったことを引き続き行いながら、後半では各自の研究テーマに沿った構成を暫定的に確定することと、各構成要素にしたがって論理化するための要旨の作成の指導・訓練を行う。
演習Ⅱ (小川雄平)	未定
演習Ⅱ (大浦洋子)	演習Ⅰを受けて、研究分野に関連した学術論文等のサーベイによって未解決問題を把握し、これまでの自己の研究内容と比較検討することで研究テーマの絞り込みを行う。その後、研究テーマの解決へ向けての理論的なモデル化、解析手法の選択、予測や制御に関する方針、数値解の可視化などに関する理論および数値解析コードの作成を踏まえた研究を行う。研究成果については、相応の学会等での発表を行う。
演習Ⅱ (車炳圀)	演習Ⅰで習得した知識をベースに博士後期課程で行う研究のテーマを決め、その関連資料の収集及び輪読、追実験などを中心に研究を進めるとともにその研究成果を随時論文にまとめ、発表する。また、研究課程で出てきた諸問題点の検討および改良を行う。

授業科目名	講義等の内容
<p>演習Ⅱ (津守常弘)</p>	<p>演習Ⅱは、博士論文作成に必要な会計制度に関する体系的知見の整理と深化を目的とする。そのため、日、米、英、独など主要諸国における会計規制方式、コーポレート・ガバナンスの在り方の相違と国際的な趨勢について整理し、主に「マクロ会計政策」に関する理論的研究を深める。演習Ⅱは、演習Ⅰの場合と同様に、予め指定した英文テキスト・その都度配布する英文テキストの講読および問題点についてのディスカッションを中心に系統的に進める。</p>
<p>演習Ⅱ (橋爪善光)</p>	<p>演習Ⅰを受けて、関連した学術論文を収集しつつ、運動計測実験の被験者数を増やし研究を進めるとともに、その研究成果を随時論文にまとめ発表する。</p>
<p>演習Ⅲ (麻生隆史)</p>	<p>デジタル画像処理に関する様々な研究をまとめ、演習・シミュレーションで得られた成果を基に、論文作成のための研究のまとめ方、研究の細部に関する検証、情報科学の分野での直近の研究成果の調査をする。さらに論文作成に必要な様々なアイデアを再検討し、より高度な研究の進め方・まとめ方を指導する。具体的には、研究の新規性・学術的なレベル・社会への貢献等を検証する。</p>
<p>演習Ⅲ (丑山優)</p>	<p>各自の研究テーマに沿って、学位論文のための文章化を進めるが、各構成要素ごとに報告を演習内で行い、かつ外部での報告も試みる。なお学位論文として完成することが、それぞれの研究分野においてオリジナリティーをもって貢献することを期待する。</p>
<p>演習Ⅲ (小川雄平)</p>	<p>未定</p>
<p>演習Ⅲ (大浦洋子)</p>	<p>演習Ⅰ・Ⅱを受けて、数値解析コードをさらに発展させるべく、研究内容のより詳細な分析や理論的骨組みの確立を踏まえた上でコードの改良やシステム化を施し、解析システムとしての信頼性の向上に努める。研究成果については、相応のジャーナル等への投稿を行うとともに、博士論文としてこれまでの研究成果をまとめる。</p>
<p>演習Ⅲ (車柄紀)</p>	<p>演習Ⅱで進めてきた研究をまとめ、研究成果を学会発表及びジャーナル論文として投稿する。また、研究課程で出てきた諸問題の改良を進めるとともに知的メディア情報処理に関する知見をまとめ、より高度な知的処理手法の開発を目指す。</p>
<p>演習Ⅲ (津守常弘)</p>	<p>演習Ⅲは、受講者が選択する会計情報関連の特定テーマに関する博士論文の作成を具体的に指導することを目的とする。すなわち、この演習では、演習Ⅰにおける会計理論研究、演習Ⅱにおける会計制度・「マクロ会計政策」の研究を土台に据えながら、特定テーマに関する具体的な研究を行う。その場合、とくに会計実務の実態の把握、「マクロ会計政策」と「ミクロ会計政策」との関係性を重要な研究課題として課し、また、実証研究的な手法を重視する。演習は、各受講者が選択した特定の研究テーマに関する研究報告とそれをめぐるディスカッションを中心にして進める。</p>

授業科目名	講義等の内容
演習Ⅲ (橋爪善光)	演習Ⅱで進めてきた研究をまとめ、その研究成果を随時論文にまとめ発表する。学位論文としてこれまでに投稿してきた複数の論文をきちんと1つの筋の通ったストーリーを作ってまとめ上げる。